

樹木の健康を守る

バイオビリオン

登録番号 生第85986号

家庭園芸用複合肥料

20ℓ・10ℓ・1ℓ

育苗時・移植時・衰弱時のエース

樹木の根を活性化して土壌中の共生菌を増やす「バイオビリオン」は、根に直接作用し根を健全にすることにより、元気な樹木を育て病気を寄せつけません。

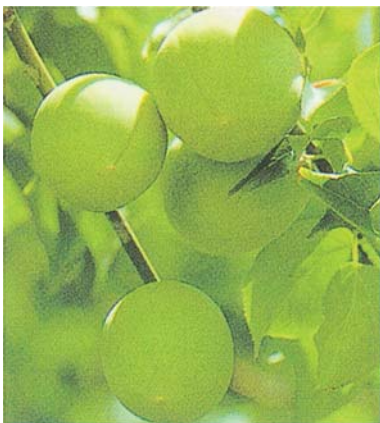


活根作用で樹木生き生き

衰弱した桜の老木もバイオビリオンの活根作用で元気を回復。



バイオビリオンは様々な効果を発揮している活根肥料です。



- 毛細根が多くなった。
- 土の透水性・通気性が向上した。
- 共生菌の増加に役立つ
- 衰弱した桜の老木がよみがえった。
- 苗木の活着率が飛躍的に向上した。
- 移植木の活着率が向上した。
- マツタケが増えた。
- 梅の木の原因不明の枯れが止まって回復した。



バイオビリオンの効果で、地上部の徒長は抑制され地下部は発達します。

群馬県1社1技術認定

取扱店

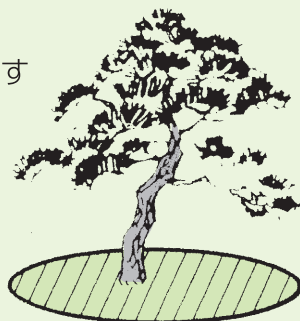
椿産業株式会社

バイオビリオンの使用方法

原液を100倍に希釈して散布機で散布してください。

※使用適期

- 年中いつでも使用できます
 - 衰弱木に使用するとき
異常を確認したとき
その後は半年に1回
回復したときは年1回
- ※衰弱が著しいときは1回目の
1ヶ月後、3ヶ月後にも使用
してください。



- 移植時の使用方法
移植木を穴に立て、
覆土する前に散布。



1. 使用量

樹木の胸高直径を測定し「バイオビリオン」の使用量を決めます。
年1回散布する場合：胸高直径1cmあたり25cc (20cmの松/500cc)
年2回散布する場合：胸高直径1cmあたり12.5cc (20cmの松/250cc/回)

○山林等で水がない場合は、原液のまま散布してください。
(この場合は、効果が現れるのが遅くなります。)

3. 散布後

2~3ヶ月で樹木全体に吸収されます。
衰弱しているときは6ヶ月以上かかることがあります。
※松ではヤニの出ないものには効果は期待できません。

2. 使用方法

- ①木の健康状態をチェックします。
- ②胸高直径より使用量を決め、水で100倍に希釈し、
根元土壌（枝の幅と同じ範囲）に散布します。

標準使用量

単木の場合		
直径	一本当り使用量	希釈液量(100倍希釈)
20cm	(原液) 500cc	50 l
30cm	750cc	75 l
40cm	1000cc	100 l
50cm	1250cc	125 l
60cm	1500cc	150 l
70cm	1750cc	175 l
80cm	2000cc	200 l
90cm	2250cc	225 l
100cm	2500cc	250 l

林地の場合(根が交差しているとき)		
直径	一本当り使用量	希釈液量(100倍希釈)
20cm	(原液) 400cc	40 l
30cm	625cc	62.5 l
40cm	800cc	80 l
50cm	1050cc	105 l
60cm	1250cc	125 l
70cm	1530cc	153 l
80cm	1660cc	166 l
90cm	1810cc	181 l
100cm	2000cc	200 l

初回使用の場合、直径50cm以上の大径木、より高い効果を求められるときは標準量の2倍の原液を使用すると安心です。(希釈率は50倍以上)

使用上の注意

成分が沈殿することがありますので、
使用前にはよく振ってください。

- ☆「バイオビリオン」は、原液を飲み込んだり、目に入らないように注意してください。また、小さなお子様の手の届かないところに保管してください。
- ▲万が一、飲み込んだ場合は吐かせて、目に入った場合は水で洗い流していずれの場合も医師にご相談ください。
- ☆「バイオビリオン」の原液はつんとする強い臭いがします。
- ☆「バイオビリオン」の使用中は、灌水は平常通り行ってください。
- ☆「バイオビリオン」は年中使用できますが、初春から初秋が根からの吸収がよく、早く効果が現れます。
- ☆「バイオビリオン」の保存は、直射日光をさけ、涼しいところに置いてください。開封後は早めに使用するようにしてください。
(未開封の場合、2年間は保存できますが、できるだけ早く使用されることをおすすめします。)
- ☆「バイオビリオン」は樹勢回復や活着促進に使用する場合、使用后3ヶ月しても改善が見られない時は、再度使用してください。

生産業者保証票

登録番号 生第85986号
肥料の種類 家庭園芸用複合肥料
肥料の名称 つばき複合液肥2号
保証成分量(%) 水溶性りん酸 1.0
水溶性加里 1.7
正味重量 20kg・10kg・1kg
生産した年月 欄外に記入
生産業者の氏名又は名称及び住所
椿産業株式会社
群馬県太田市長手町183番地
生産した事業場の名称及び所在地
椿産業株式会社
群馬県太田市長手町183番地

▲「石灰硫黄合剤」と混合すると、有毒ガスが発生する恐れがあり、危険ですから混用は行わないこと。